

第5回 信州須坂まちの元気創出推進委員会

議事録

【日時】 令和4年1月12日(水) 13:30~16:30

【場所】 生涯学習センター(旧中央公民館)3階ホール

【内容】

1. 開会
2. あいさつ
3. 全体進捗と今後の予定について
4. 議事
 - (1) 2021年度事業の中間報告と2022年度各事業計画について
「産業振興」「文化振興」「回遊促進」の3部会で検討した事業計画について
 - (2) 2022年度収支予算見積り予算書について
5. その他
 - (1) 今後の予定について
 - (2) 相田みつを展案内チラシについて
6. 閉会

【出席者】

38名

(委員12名 市関係者9名 事務局5名 事業者12名)

【オンライン参加】

プロモーション事業(NEW STANDARD)

「体験型プログラム」の展開に向けた実証事業(地方創生LAB)

須坂市内運行バスロケーションシステム導入業務(ITSアライアンス)

【資料】

- ・次第
- ・席次
- ・【事業説明】地方創生推進交付金採択事業
- ・全体進捗と今後の予定
- ・各事業説明資料(産業振興、文化振興、回遊促進、収支予算見積り書)

【会議内容】

1. 開会

2. あいさつ 委員長

一昨日長野県も新型コロナウイルスがレベル4に上がった。長野県の独自基準で国の基準とは異なるが、本日の会議は大事な会議である為感染症対策を皆様にお願ひし、開催を決定させていただいた。心より参加を御礼申し上げます。

信州須坂まちの元気創出推進委員会は、第5回目になる。地域資源を活かしたまると博物館構想により、地方創生交付金事業に取り組むために本委員会を設立した。委員・専門部会・委託事業者・アドバイザーの方々の協力のおかげで本日を迎えることができたことに感謝申し上げます。前回の委員会に置いて2020年度の事業報告と決算報告、2021年度の事業計画について承認を頂いた。今回の委員会では、前回の委員会の審議内容を踏まえて今年度取り組んでいる産業振興事業や文化振興事業、回遊促進事業の各事業について2021年度の間接報告をして頂く。また、来年度2022年度の事業計画についても審議をお願いする。忌憚のない意見をお願いしたい。本事業は2022年度が最終年度となる。3年目に向け更なる事業成果がある様をお願いしたい。

3. 全体進捗と今後の予定について

●説明：事務局

●質疑：なし

4. 議事

(1)2021年度事業の中間報告と2022年度各事業計画について

「産業振興」「文化振興」「回遊促進」の3部会で検討した事業計画について

①産業振興事業

2021年度産業振興事業の経過について

●説明：JTB 総合研究所

●質疑：なし

2022年度産業振興事業計画について

●説明：事務局

●質疑：

観光協会：フルーツ王国やフルーツハリウッドの中心的なものでぶどう共和国のポスターが作成されたが、フルーツハリウッドやフルーツ王国は、高畑の観光農園が使用している名前である。ポスターを見た時に高畑のフルーツ農園の実施している事業の様に取り入る人もいた。他のぶどう農家でも一緒に観光事業を行いたいという人もいると思われる。そういった時に一定の事業者が関わっているものではなくぶどうリングに対しては須坂全体で取り組むものにしていただきたい。資料に記載されている直売所13店舗フルーツ店10店舗以外にも実際は店舗がある

と思う。今後ぶどう共和国として実施するのであれば、一部分だけではない事業者も参加する事を考慮していただきたい。こういった意見が今年の観光協会の理事会で出た。高畑の観光農園も観光協会の会員である為、協会としてもPRを実施している。高畑以外の地区の会員もいるが、そこは対象外だとみられている。須坂全体で実施しているというイメージを抱かせる様なものにしていただきたい。

委員長：今後の参考にさせていただく。このことに関して農協の意見を聞きたい。

委員：イベントの規模や実施場所、誰が実施するのかが重要であると思っている。ぶどう祭りに関しては10年以上実施しているが、半日実施して2,000人超の来場者がある。駐車場など問題もありコロナとは無関係に直近2年間は実施していない。場所や運営人員の確保などが半日でも大変であった。昨年今年、高畑にあるJAのAコープ店舗で3週間ぶどう直売所を実施したところ、あまり告知を実施しなかったが口コミで来店があり、売り上げも好調であった。りんごに関してはAコープでイベントを実施していたが要員が不足している為ここ2年間は実施出来ていない。

委員長：これに関してJTB総研から意見を聞きたい。

JTB総研：貴重なご意見だと思っている。頂いたご意見を次年度十分考慮して進めていきたい。

ぶどう祭りに関しては、次年度仮に実施した後、翌年以降は主体がどこになるのかが課題であると思っている。ぶどう共和国はイベントの様に見えるが、プロモーションキャンペーン要素も大きい形で考えている。イメージは、ボジョレーヌーボー解禁時のプロモーションで、ぶどうシーズンが来たら「須坂のぶどうを買わなきゃ、須坂に行ってぶどうを買おう、須坂に行って須坂のぶどうスイーツを買おう」という様に観光客になっていただきたいと考えている。本年度複数のミニイベントを実施して、ぶどうシーズンに様々なテーマで同時多発的に各所でイベントが実施されていることが分かった。そのイベントの中に少しずつぶどうの要素を入れていくことで、一層ぶどう色が出ていくと思っている。ただ、JAが実施しているぶどう祭りの様に核になる大きなイベントも必要不可欠である。ぶどう祭りと言う大きな核があった上で前後2か月位の期間中に同時多発的にぶどうのミニイベントや、街中の飲食店や農園、市内に同じのぼりが立ち並ぶ様なことや、プロモーションの一環で統一したデザインの包装紙や袋を使用するなど盛り上がる様なイベントをイメージしている。

今年度、農園と飲食店の回遊促進の取り組みを実施した際、いかに農園の方々かぶどうシーズン忙しいかを聞いてはいたが想像以上であった。直売所を閉め発送のみで対応している状況もあり、この時期に手を掛けさせることは出来ないと思った。ぶどうという大きな傘を掛けるが、なるべく実体的な負担にならない様なプロモーションイベントの取り組みを考えている。その中で、可能であれば、ぶどう祭りや昨年実施されたアグリス前での販売と連携させていただく様な形で考えている。

委員長：事業報告にある、文化財保存活用事業の中にある須坂市が保存する映画のポスター活用事業は、何か月に一度で良いので随時今後も継続しポスターを見ていただきたい。

JTB総研：キネマ旬報の元編集長に来ていただいた。全国各所の資料やイベントを見て歩いている人だが、首都圏ではなく地方で状態が良い資料をこれほどの枚数を保存していることは相当珍しい。これを倉庫で眠らせておくのは勿体ない、是非活用してはどうか、とアドバイスを頂いている。今年度、赤いカーペットや雰囲気が出る様な照明、音響などを用い、展示においてもキネマ旬報に監修していただき作品説明を添えるなどし、参加者から満足度の高い意見を得ている。一方で、倉庫という事もあり消防法など様々な障壁もある。年に数回と仰っていただいた様に、引き続き映画の資料の展示を行いながら活用方法を模索していきたい。

委員：以前の会議で、シャインマスカットパフェに力を入れていくという話があったが、今回の資料にシャインマスカットパフェの記載が無い。フルーツサンドやクレープは実施したと思うが、シャインマスカットパフェは実施されたのか？

JTB 総研：資料にはシャインマスカットパフェという記載はないが、ぶどうスイーツ、スイーツと記載したものが、シャインマスカットパフェに該当する。市内にある 10 店舗の飲食店において、今回の企画を実施するにあたり一律でシャインマスカットパフェを提供するご協力を頂いた。

委員：文化財保存倉庫の活用で映画のポスターを展示していくという中に、マニアックな人だけでなく一般に向けた取り組みが必要とあるが、今迄一般向けの取り組みを考えて来た結果、様々な事業が上手くいかず後退しがちであった様に考えている。マニアックであることはとても良いことで、今流行っている鬼滅の刃の様に、オタクが文化を作りそれを一般の人を巻き込んでいくので、出来れば一般向けよりも挑戦的にやっていただければ面白いと感じる。

JTB 総研：SNS が非常に発達した関係で、小さなコミュニティの情報発信もスムーズな世の中になってきている。母体としては小さくても関心が高い方々やネットワークに強い方々に面白さが伝われば、きちんと人が集まってくるという様な仕掛けが出来ると考えている。頂いたご意見は貴重なお意見として受け止めさせていただく。

委員長：回遊性向上のための環境整備事業は、実際にどの様なことを検討、実施していく事業なのか？

事務局：当初の事業申請時のイメージでは、スタンプラリーの様な物であった。アプリの開発に伴い申請した事業なのでアプリを活用する目的があったが、現行のアプリに関してはスタンプラリー機能が実装されていなかった為、回遊性向上のための環境整備事業の実施方法については、今後開催される部会で事業者と共に検討していく。

②文化振興事業

2021 年度文化振興事業の経過について

●説明：長野経済研究所

●質疑：なし

2022 年度文化振興事業計画について

●説明：事務局

●質疑：

委員：ロゲイニングをスポーツ化したイベントが非常に効果があったという報告があったが、その中で、子供たちが一緒に参加していくという事は、若い世代に引き継がれていくきっかけになると思った。

以前も伝えたが、須坂市の小学校では、非常に須坂市の郷土学習を大事にしている。市のウォーキングイベントと学校を連携し、市と学校とがお互い内容を知りながら実施していく事が大切であると思う。

事務局：学校と行政、地域の連携に関しては、生涯学習推進課で実施しているものもある。今後取り入れる事が可能であるかどうかを含め、事務局、委託業者、文化振興部会で今回の意見を検討事項にさせていただきたい。

委員：シニア層の参加が多く若い世代の参加が少ない課題がある中、ロゲイニングを実施したことで、若い世代の参加者が多くあったことは凄く効果があったと思っている。須坂の文化振興の中で、入門編としてロゲイニングは効果があったと思っている。意見の中に、美術館を見る時間がなかったというものがあったが、入門編としてのロゲイニングはゲーム性の高いイベントの為さらっと終わらせ、その後に各美術館や博物館のイベントに改めて参加できる様な申込体制を作ることによって解消できるのではないかと考える。ロゲイニングに参加することで特典を受けられる様なことが出来れば解消できるのではないかと考えている。ゲーム参加者がターゲットの為、ゲーム性を失うと参加人数減少が懸念されるので、来年度実施するのであればその様なことも協議頂ければと思う。

委員長：頂いたご意見を前向きに来年度に向け検討していただきたいと思います。

委員：変更案に、市民ボランティア養成でまると博物館体験講座実施事業とあるが、どこが主体となり、どの様な人達を対象にガイドの養成や講座を行うのか？と言った案が、現在事務局で何かあるのか？

事務局：今ご質問いただいたことに関して、ここで即座に返答は出来ない状況である。委員からもご心配頂いている様に、ガイドは一朝一夕に出来るものではない為、これをどの様に実行していくかについては重要で難しいことであると認識している。ターゲットも含め、今年度2月3月に向けての文化振興部会の場で考えていきたいと思っている。

委員：講座は単年度でも出来ると思うが、案内人を養成するという事は非常に難しいことである。10年ほど前にインストラクター養成講座を1年だけ開催した時も、1年で5コースか6コースの現地学習を実施した。現在、案が無く単年度で実施出来ないのであれば、2023年度まで何かの形で実施出来る様な仕組みを作っていただけると良いと思う。今からターゲットを考え全てをきちんと揃え4月にスタート出来るとはとても思えない。先を見据えたガイド養成を考えていただきたい。

委員長：ガイドの養成講座については人材育成になる為、一朝一夕に出来るものではない。まると博物館関連のボランティアガイドとなると蔵の町並みや歴史など色々な内容になる。これについて2022年度はひとつのきっかけ作りの様な形になると思う。補助事業終了後も継続を前提として考えてもらいたい。

委員：ボランティアや観光案内に関し、須坂市の歴史などを全て説明出来る人を育成することは非常に時間も掛かり人数的にも限られ難しいと思う。だが、一部分についてだけ深く説明することが出来る人はかなり存在する。そういうところをきっかけに人材育成の窓口として実施してはどうかと思う。社会教育で先ほど学校の話があったが、郷土学習に関わっている地域の人は沢山いる。その人達も全てではなくある一部分に関して詳しい。その様に細かい部分に関して案内できる人材は比較的いると思う。そうすれば少し枠が広がっていくと思う。

事務局：1人で全て案内することは不可能であり、時間も膨大に要する。市内には専門的な知識のある人が沢山居るので、そういう人達を繋いでいくということも今回の非常に大きなテーマであると思っている。

③回遊促進事業

2021年度回遊促進事業の経過について

●説明：DMM.com

- ・サイネージシステムについて説明：須坂新聞社
- ・ロケーションバスについて説明：市民課

●質疑：

委員長：ロケーション事業に関し、YouTube は多くの人に視聴してもらえているのか？ 良い動画であるので視聴数が分かれば現状数を教えていただきたい。

NEW STADARD：（通信状況で返答不可）後ほど返答する。

委員長：色とりどりの須坂という動画が 11 月 29 日から公開され再生回数が 450 回であるため、よく見られていると思う。更に多くの人に見てもらう様に引き続きお願いしたい。

委員：市内の観光案内看板、石柱看板の盤面改修及び QR コードを掲載とあるが、須坂の観光客のお客様から、観光案内看板が無くて分かり辛いという意見がすごく寄せられる。QR コードは、今あるポイントから臥竜公園の様に主要な場所までの距離や時間など細かな情報が、交通手段毎に分かる様なものなのか？

須坂新聞社：既存のアナログ看板 5 か所、石柱看板が市内に 49 か所ある。そこにそれぞれ QR コードを付け、その QR コードを読み込むと、今回の事業で新たに立ち上げた須坂の情報を集めたポータルサイトが表示されるので、色々な情報が見ることが出来る。観光客が須坂の情報をわざわざ検索しなくても簡単に見ることが出来る部分で利便性を高める効果があると考えている。

委員：現在コロナ禍で観光客は少ないが、今後を考えるとインバウンド客が来ることは考えられる。多言語は必須になる為、必ず多言語対応の表記を実施し、先ほど申し上げた様に観光客が欲しい情報を得られる様な物にしてほしい。ポータルサイトもワンアクションで目的の情報が得られる様なものにしていただかないと利便性が良くない。看板は、もう少し分かりやすく、須坂に初めて来る人でも見やすい物にしてもらいたい。

委員：新しいポータルサイトという話であったが、既存のアプリ「ポケナビすざか」とは連動出来ないのか？

須坂新聞社：ポータルサイトからアプリをダウンロードする様に誘導する形で考えている。

2022 年度回遊促進事業計画について

●説明：事務局

●質疑：

委員：公共交通の周遊バス運営委託事業に関し、2 年前までは桜の時期に観光協会が実施する臥竜公園のさくらまつりに合わせ、遠藤酒造の蔵開きイベントが開催され実行委員でお金を出したバスを 1 台周遊させていた。バス待ちが出るほど大勢の利用客があり特に土日はすごく需要があった。コロナ禍で飲酒を伴う花見は行われないかもしれないが、今回の様な計画であれば、さくらまつりの時期に是非実施していただければ、土日の観光客を目当てにした周遊観光が掘り起こせるのではないかとと思う。是非ご検討いただきたい。

市民課：実施時期については検討中である為、今回頂いた意見を参考にさせていただき部会で検討させていただきます。

委員：ラッピングバスは大変良いと思う。できれば菊まつりの時期にも運行できると良い。

委員長：菊祭りなどイベントの時期には是非考えていただくようにしたい。

委員：多大な資金を掛け施設整備などを作っていただいているが、その後をどれくらい想定しているのか？ここで終わってしまうと次にどう繋げていくのかが大きな問題になる。そういった配慮は含まれているのか？

事務局：3年間の事業である為ハード面を整備することを伴う。4年目以降の維持管理費と言う問題は各部会からも出ている。これについては、出来る限り維持管理費をかけない方向でやっていきたいと思っている。物として残る部分に関しては、今後どの様に維持管理費を捻出していくかも重要である。例えば、デジタルサイネージ等の維持管理費を考えていく中で広告を募り広告費を収入としていく考え方もある。この事業について、3年間の事業の後にどういった部分を主体的に実施していくのかという部分も含め、今後、来年度を通して考えていかなければならないと思う。3年間でこれだけのお金を掛けたという事もある為、どこを継続的にやっていけるかという部分は、実施主体も含め考えていく必要があると感じている。

委員：事業全体で気になっているのが、アンテナを高くしていないと、こういうことを実施しているという事自体が伝わっていない。フェイスブックなどから流れてくる情報がないと事業内容を分かっている不安である。

事務局：これだけの規模で、委員、委託事業者が関わり実施しているにも関わらず、フェイスブックも情報更新が行われていない状況である。SNS や広報など色々な機会を通じて現状や来年度の事業に関するPRに力を入れていかなければならないと認識している。ご意見の通りこれについては力を入れていきたいと思う。また、産業振興事業で今年度予定していた市民フォーラムは、一般市民も含め、こういった事業を実施しているというパネルディスカッションや事業報告を実施したいと思っている。

委員：沢山の事業が実施されていたが、認知度が低いことが残念である。これに限らず須坂市の情報は自分で探さないと分からない。防災情報などが毎日流れているが、ああいった所で今日何時にこういったことがあるという様な情報があれば良いと思う。若い人はスマホで自分から情報を探ることが出来るが、高齢者は興味のある物も違うのでその様なものがあれば良いといつも感じている。

もう一点、電動スクーターやEバイクは非常に良いと思うが、事故があると良い思い出も無くなってしまうため、安全面も重視して考えていただければと思う。

委員長：防災情報にイベント等を流すことは色々問題があるため別として、情報を流すことは大事である。YouTubeで申し上げたが、見る人がいないと良い物を作っても意味が無い為、全体的に広報をしっかり実施してもらいたい。

電動バイクは、安全面も利用者にはしっかり案内し駐輪場も設けることも大事であると思っている。

(2)2022年度収支予算見積書に関して

●説明：事務局

●質疑：なし

委員長：2022年度事業、予算見積書に関し、承認の採決を取らせていただく。

(全員同意)

委員長：全員から承認を得たという事で、国に申請をしていきたい。

5. その他

(1)今後の予定について

- 説明：事務局

- 質疑：なし

(2)相田みつを展案内チラシについて

- 案内：事務局

6. 閉会

以上